

【 La Boheme (ラ・ボエーム) 】 訳詩／土田りかこ

モンマルトルの おんぼろの 安い部屋で  
二人生きた リラの花に見守られて  
いつも腹ペコ 絵を描く僕のために君は  
ヌード・モデルでパンを手に入れた  
ラボエーム・ラボエーム「それは誇り高き自由を生きる者」  
ラボエーム・ラボエーム 聞かせよう若人よ

一つのパンで 二日をしのぐ そんなある日  
絵が一枚 食堂に売れたんだ あったかい食事まで  
仲間を呼び 久しぶりにはしゃいださ  
やがて来るだろう栄光を語り明かして  
ラボエーム・ラボエーム 誇り高き自由よ  
ラボエーム・ラボエーム 若さだけの絵筆

毎晩 イーゼルの前で 徹夜で君を描く  
書いては消す 胸や腰の美しいうねり  
書き上げた朝 君の入れたコーヒーはほろ苦く  
心地よい疲れに いただきあった二人  
ラボエーム・ラボエーム 誇り高き自由よ  
ラボエーム・ラボエーム 二十歳の喜び

月日は過ぎ ある日ふっと 白髪の際は  
探しに来た あのアトリエのあった道を  
尋ね歩けど 建物も人も花もすべて  
面影なく 変わり果てていた  
ラボエーム・ラボエーム 誇り高き自由よ  
ラボエーム・ラボエーム 死に絶えた喜劇  
ラボエーム・ラボエーム 誇り高き自由よ  
「今はもうこの言葉に何の意味もないさ」